



市民医療フォーラム2010（会長挨拶）

会長 山 光 進

皆様、こんにちは。ただいま、ご紹介いただきました山光です。

今年で7回目を迎えました、「市民医療フォーラム」に、この様に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいま、司会の橋本さんからご紹介がありましたが、本日の基調講演には、北海道出身（芦別）の外交ジャーナリストで作家の、手嶋龍一先生をお迎えすることができました。

手嶋先生は、NHKワシントン支局長を務め、2001年9月11日の米国同時テロでは、11日間の昼夜連続の中継を担い、その冷静で的確な報告が視聴者の圧倒的な支持を得ました。また、先生の著書である日本初のインテリジェンス小説「ウルトラ・ダラー」は40万部を超えるベストセラーになりました。その後「インテリジェンス 武器なき戦争」、「ライオンと蜘蛛の巣」、「days of wine and bullets」などを出され、Mr. インテリジェンスと呼ばれております。「days of wine and bullets」は「葡萄酒かさもなくば銃弾を」という題で出版されていますが、私としましてはこの題は音の響きが余り良くないという思いがあり、文字どおり訳すなら「酒と銃弾の日々」とか、少しくだけて気取ってみるなら「ワインと弾丸、お気に召すまま」とかは如何でしょうか。冗談はさておき、皆様お気づきの様に、私は絶対的手嶋ファンで、本日先生のお話をお聞きできることを、本当に嬉しく、心から楽しみにしております。

また、3名の専門の先生方による「パネルディスカッション」を行いますので、手嶋先生の基調講演、そして専門の先生方のお話をお聞きし、明日からの生活に役立てていただきたいと思っております。



山光 進 会長

この機会に、皆様方に、日頃、私が感じていることを少し述べさせていただきます。

私は、札幌市医師会の会長としても、一人の医師としても、患者さんが安心して医療機関にかかれるようにしたいし、高齢者が先行きを安心して暮らせるようにしたい。

また良質の医療を「いつでも・どこでも・だれもが」受けることができるようにしたい、との思いで医師会活動を行っております。しかし最近、「お金が足りなくて医療機関を受診出来ない」という方が非常に多く、この状況には悲しみと怒りを感じております。患者さんの自己負担額や負担限度額を引き下げ、病める人が安心・安全に医療を受けることができる社会にすることが必要です。そのために、私たちは日本医師会を通じ、また地元の国会議員を通じて、日々政府に働きかけております。

世界一の長寿国を作り、高い評価を受けている日本の医療制度を、将来にわたって守り発展させて行くことが私たちの使命であり、皆様方が日常の生活を安全安心に送ることができることが、私たちの願いであります。

そのためにも、あらゆる機会を通じて、皆様方と、共に語り共に考え、お教えいただき、そして行動していく姿勢で、今後とも一生懸命取り組んで参りますので、是非、医師会活動にご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。この市民医療フォーラムでは、毎回手話を

札幌聴力障害者協会様に、要約筆記を「ふきのとう」様に、ボランティアとして御協力頂いております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

それでは、皆様お楽しみください。本日は、ご参加いただき、ありがとうございました。

「市民医療フォーラム2010」報告

地域社会部長 鈴木伸和

去る10月23日（土）午後1時より札幌市民ホールにおいて市民医療フォーラム2010を開催しましたので、その概要について報告いたします。

このフォーラムは、市民のニーズに沿った健康と医療をテーマに掲げて、障害者を含めた多くの市民に参加していただくことと平成16年から企画されているもので、今回で7回目になります。当日会場には1203名の市民にお越しいただきました。

開会に先立ち主催者を代表して札幌市医師会の山光進会長が、共催者を代表して上田文雄札幌市長が挨拶に立たれました。

今回の市民医療フォーラムのメインテーマは「私たちが安心して医療を受けるために～安全保障としての医療制度～」です。第一部の基調

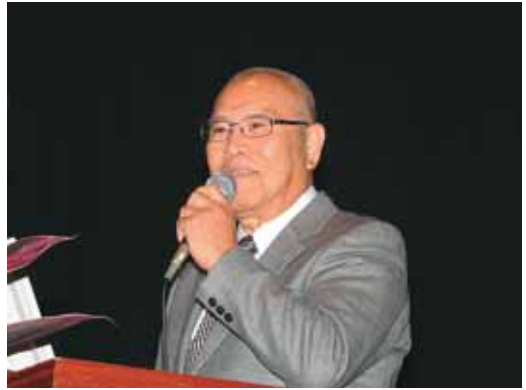
講演は外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一氏にお願いしました。手嶋氏の講演テーマは「国家と暮らしの安全保障～日本の針路を考える～」で、前半にわが国の皆保険制度の素晴らしさを語られました。話の中で、アメリカ合衆国ではオバマ大統領が8000万人の無保険者を救うために医療保険制度改革を行ったもののその評判が悪く、中間選挙での大敗北が予想されていることを紹介されました（実際に大敗しました）。しかし、同じように評価を下けている民主党の菅総理とは、何かをして下げるのと何もしないで下げるのとで大きな違いがあると指摘し、会場から拍手喝采を浴びていました。政府民主党批判の流れで、専門の外交問題の話に移りました。話題の主役は尖閣諸島問題です。中国側からの強硬措置に屈して、巡視船に衝突してきた中国人船長を早々に処分保留釈放してしまったことを、愚かな対応とばっさり切り捨てていました。彼曰く、わが国が圧力をきちんとはねのけていけば向こうは必ずおりてきたのだそうです。それは過去の中国の対応を見れば自明の理であり、今回の件でクリントン国務長官が「尖閣諸島は日本の領土であり、日米安保条約の適用対象」と述べて有事には第5条に基づき武力発動の用意があることを表明しても中国が沈黙し続けているのがその証拠と述べられ、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」というピスマルクの言葉を引用して、民主党の愚か



上田 文雄 札幌市長



手嶋 龍一 氏



丸山 淳士 先生



加藤 紘之 先生



大野 一典 先生

さを嘆いていました。

第二部はまず初めに3人の先生方に順に講演をしていただきました。

講演のトップバッターはこの会の常連、五輪橋産科婦人科小児科病院名誉理事長の丸山淳士先生です。テーマは「わが国の医療のいいところ、悪いところ（総論）～他国（スウェーデン）と比較して～」です。丸山先生はこの5月に1ヶ月に渡ってスウェーデンに滞在された経験をお話し下さいました。そこでご紹介いただいた同国の福祉サービスの手厚さと負担割合の大きさは、まさに高福祉・高負担国家そのものでした。ただわが国の医療システムで優れている面も挙げられました。それはアクセスのよさです。スウェーデンの場合は家庭医が決められておりしかも予約制のため、受診まで2週間前後かかるのが普通で、救急病院に行った場合でもだいたい8時間は待たされるのだそうです。

次にご登壇されたのは斗南病院院長で北海道大学名誉教授の加藤紘之先生です。「病院はいつも戦場～安全な医療をどう守り育てるか～」というテーマでお話をいただきました。冒頭から医療事故の話が述べられて、いかに医療が危険なことなのかを市民の皆さんに訴えられました。では安全な医療を受けるためにはどうしたらいいのか、それは医療者任せにするのではなく、患者さんも一緒になって取り組むことだと述べられました。医療者側と患者側双方が互いの信頼を基盤に一緒に医療をやりたいと強調されました。そして最後に安全な医療が保障されるために信頼できるかかりつけ医を作ることが大切だと締めくくられました。

講演のトリを飾られたのは、しらかば泌尿器科クリニック院長の大野一典先生です。大野先生のテーマは「診療所の担うべき役割とは～開業医が抱える問題点～」でした。大野先生は勤



パネルディスカッション

務医の激務がマスコミで取り上げられる中、開業医があたかも楽をして儲かっているという風潮がまかり通っていることを嘆かれ、市民の健康を守るためにいかに開業医が多くの役割を果たしているのか会場に来られた一般の方々にもわかりやすくご説明いただきました。

3人の先生方のお話が終了後、橋本登代子アナウンサーの司会の下、手嶋龍一氏も交えてパネルディスカッションを展開していただきました。そこで改めて今回のテーマ「私たちが安心して医療を受けるために」について語られましたが、加藤先生は重ねて患者さん自身が一緒に医療に関わる姿勢をとることの重要性を語られました。

市民医療フォーラムでは参加された市民にアンケート調査を行っています。今回回答いた

けたのは856名でしたが、講演内容の評価では「大変良かった」とご回答いただいたのが52.2%、「良かった」が31.5%をあわせて83.7%の方から良かったとの回答をいただきました。これは概ね例年通りの数字です。具体的な感想としては「どの先生のお話も大変興味深く、患者は全てを医療機関にゆだねるのではなく、一緒に医療を作っていく必要があると感じた」、「海外の医療と比較することで、日本の医療制度の高さを誇りに思った」、「手嶋氏の臨場感あふれる流れるようなトークにひきつけられた」などが寄せられました。また「基調講演の時間を長くして欲しい」という要望もあり、これは手嶋氏自身も講演中におっしゃられたことであり、今後の検討課題にしたいと思います。